

日本におけるスカッシュの競技人口の推移に関する研究

— 民間フィットネスクラブの会員に着目して —

生涯スポーツゼミナール 1413070 渡邊 奨太

1. 研究動機・研究目的

スカッシュというスポーツは日本では競技人口、認知度がともにサッカーや野球と比べると非常に低いマイナースポーツである。名前を聞いたことがないという人が多く、聞いたことがあっても実際にやってみたことがなかったり、試合を観たことがなくルールも分からないという人が多く、普及率がまだまだ低いことがうかがえる。そもそもスカッシュを行うためのスカッシュコートの数が少ないためなかなか普及しないことが考えられる。そこで、現在スカッシュコートを設置している民間フィットネスクラブに着目した。スカッシュコートが単体であるというところは非常に少なく、日本のスカッシュコートのほとんどは民間フィットネスクラブに設置されているからである。民間フィットネスクラブにおけるスカッシュ人口の増加は日本のスカッシュ人口の増加に直接的につながると考え、本研究に着手した。

2. 研究方法

本調査は現在フィットネスクラブでスカッシュを行っている会員と現在フィットネスクラブで働いているインストラクターを対象に半構造化インタビュー調査を行った。対象者は、スカッシュを行っている会員12名、インストラクター4名、計16名にインタビューを行った。調査時期は、2016年10月1日から11月10日である。調査内容は、現在スカッシュを行っている会員には、スカッシュを始めた動機、スカッシュをおこなっていて楽しいところ、活動頻度、民間フィットネスクラブに対する要望・満足度、スカッシュ歴（5年以上の方にはなぜ続けてきたのか）、スカッシュの良いところ、悪いところについて質問した。また、インストラクターにはスカッシュのルールを知っているか、スカッシュの指導の現状、問題点、新しく入会した会員にスカッシュを勧めているか、スカッシュの妨げになっている要因、愛好者を増やすための具体的な方策について質問した。

3. 主な結果と考察

(1) 会員に対するインタビュー調査

まず、「スカッシュを始めた動機」について尋ねたところ、民間フィットネスクラブに入会したときに初めてスカッシュという競技があることを知り、興味をもって始めたという人がほとんどであることがわかった。このことから、いかにスカッシュというスポーツの知名度が低いかが分かる。次に「スカッシュの楽しいところや良いところ」について尋ねたところ、性別や年齢を問わずさまざまな人と楽しむことができることという意見が最も多かった。性別や年齢を問わずさまざまな人と行える競技は少ないため、これからスカッシュ界を盛り上げていくにはこのようなスカッシュ特有の魅力をアピールしていかなければなら

いと考える。「スカッシュの悪いところ」について尋ねたところ、対象者全員から共通の回答が得られた。それは、スカッシュを行う場所が少ないということである。先行研究からも分かる通り、全国のスカッシュコートは約 200 コートのみで、行える場所、行える人数が限られてくる。

(2) インストラクターに対するインタビュー調査

スカッシュのルールを知っているかどうかについての質問には、スカッシュのルールは大まかなものしか分からずきちんと説明しろと言われたら説明できるかどうか怪しいという回答であった。新規の入会者や既存の会員にスカッシュを勧めているかどうか、また、もし勧めていた場合どのように勧めているのかについての質問には、ほとんど勧めていないという回答であった。スカッシュの問題点や知名度向上の妨げになっている要因についての質問には、まず、競技としてスカッシュというスポーツがあることを知っている人が多くはないという回答や、世界大会で活躍している日本人選手が少なくメディアにも取り上げられないためスカッシュの認知度も上がらないのではないかと回答であった。また、世界で活躍する選手がなかなか出てこないためその下の世代の選手もなかなか育たないのではないかと、学生大会の審判を学生がやっているというのもおかしな話できちんと審判の資格をもった大人がやるべきではないかという回答が得られた。

4. 結論

スカッシュは世界 185 ヶ国で約 2000 万人の愛好者を誇りながら、日本国内での認知度は低いという問題を抱えている。スカッシュ人口が日本でなかなか増えない一つ目の理由は、スカッシュというスポーツを認知している人が圧倒的に少ないということが考えられる。その最大の理由として、日本には世界で活躍するスター選手がいないことが考えられる。例えば、同じマイナースポーツであるレスリングを見てみると吉田沙保里選手などスター選手が存在するため知名度は非常に高い。レスリングのように日本スカッシュ界にスター選手が生まれればメディアに取り上げられる機会が増え、知名度が向上し、競技人口も増えるのではないかと考えられる。

そして、スカッシュ人口が日本でなかなか増えない二つ目の理由は、他の競技に比べ、スカッシュを子どもの頃から始める人が少ないということが考えられる。その理由としては、単純にスカッシュコートが設置されている小学校や中学校、高等学校がなく、部活動としてもないからである。そのため、スカッシュを子供のころから行う場合、日本のスカッシュコートの 8 割が設置されている民間フィットネスクラブで行うということになる。しかし、認知度が低いと、スカッシュを行うことが目的で民間フィットネスクラブに来る子供はほとんどいないと考えられる。そこで、民間フィットネスクラブで水泳や体操など他の習い事で来ている子供たちにスカッシュを勧めたり、学校の友達にも誘ってもらうなどの取り組みが必要であると考えられる。また、民間フィットネスクラブと日本スカッシュ協会により連携してスカッシュを発展させるための取り組みを行っていただきたいと考える。

5. 卒業論文の執筆を終えて

本研究を進めるにあたり、ご指導を頂いた生涯スポーツゼミナールの黒須 充教授に感謝致します。そして、本研究の趣旨を理解し、快くインタビュー調査にご協力頂いた民間フィットネスクラブの会員の方々やインストラクターの方々に心から感謝致します。